弘前大学＆弘前市＆青森県

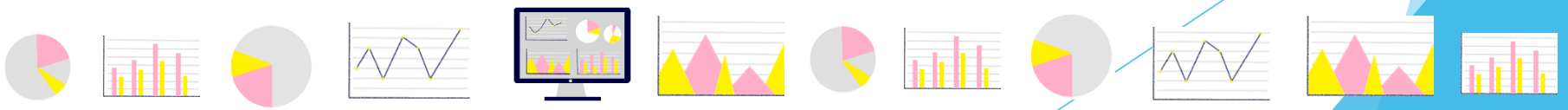
2020年 統計調査員 育成プログラム② 募集要項

今、企業や社会では、データに基づいて課題を解決する能力を有する人材、いわゆる“統計力”を身につけた人材が求められています。

国が実施する「国勢調査」の統計調査員を体験して、実践的な統計力を身につけましょう！

国勢調査 100年 1920－2020

＜活動期間＞
■2020年8～10月　　国勢調査



統計調査員にエントリーしよう！	統計力を身につける第一歩
統計調査員の心得を身につけよう！（必須）	県が主催する統計調査員になるための知識等を学ぶ研修会に参加
統計調査員の説明会に参加しよう！（必須）	市が主催する統計調査員の事務打合せ会に参加
統計調査員として、実査を体験してみよう！ これまで学んできた知識を試す機会	「国勢調査」の場合は2020年8月から、国の非常勤の公務員として任命されます。働く時間帯は各調査員にお任せしており、講義の合間に自分のペースで働くことが可能です。但し、市が指定する期日までに調査票を回収・提出する必要があります。もちろん、業務に当たっては、報酬や交通費等が支払われ、任期期間中の災害には公務災害が適用されます。
統計調査員事後研修に参加しよう！	審査終了後の振り返り学習会に参加

２０２０年統計調査員育成プログラムスケジュール（予定）

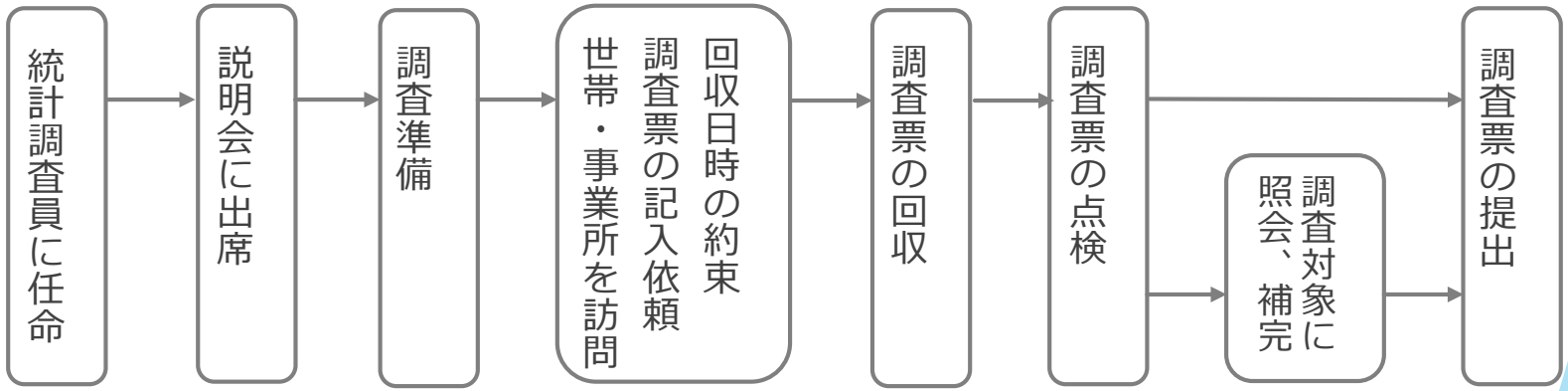
No,	プログラムスケジュール		2019年度			2020年度											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	統計調査員にエントリー！					募集 4/9 ～4/30											
2	統計調査員の心得を身につけよう！						3回 開催										
3	統計調査員の説明会に参加しよう！									1回 開催							
4	統計調査員として、実査を体験してみよう！	国勢調査								任用期間 8～10月							
5	統計調査員事後研修に参加しよう！													1回 開催			

統計調査員とは？

「統計調査員」とは？

統計調査員は、国勢調査や経済センサス等の統計調査において、世帯や事業所、店舗等を直接訪問し、調査票の記入依頼や調査票の回収・点検を担います。言わば『データを取集する』という統計調査の最前線で活躍する人たちで、最も重要な仕事と言えます。

標準的な「統計調査員」の仕事の流れは？



調査によって異なる場合があります。

統計調査員とは？

「統計調査員」の身分は？

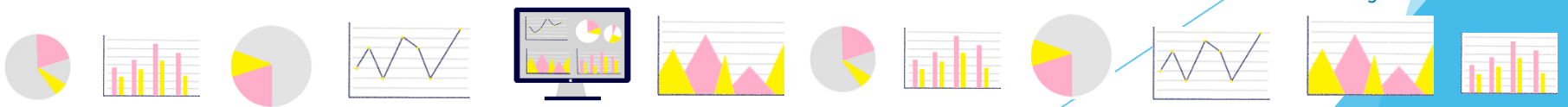
調査期間中は、国が任命する場合は一般職の非常勤の国家公務員、県知事が任命する場合は、特別職の非常勤の地方公務員の身分を有します。

「統計調査員」の報酬は？

統計調査員には、調査活動に従事した対価として、法律や条例に基づき、調査終了後に報酬が支払われます。報酬額は、調査の種類や受け持ち件数等によって異なりますが、概ね3~5万円程度です。

「統計調査員」の災害補償は？

統計調査員は、非常勤の公務員となりますので、調査活動中（任命期間中）に災害（交通事故など）に遭った場合は、一般の公務員と同様に、法律や条例の規定に基づいて、公務災害補償が適用されます。



国勢調査って、何？

国内の人口・世帯の実態を把握し、各種行政施策その他の基礎資料を得ることを目的に5年毎に10月1日現在で実施しています。

令和2年国勢調査は大正9年（1920年）に第1回が始まってから、ちょうど100年の節目の調査です。

令和2年国勢調査の対象となる世帯は？

令和2年10月1日現在、日本国内にふだん住んでいるすべての人（外国人を含む）及び世帯を対象とします。

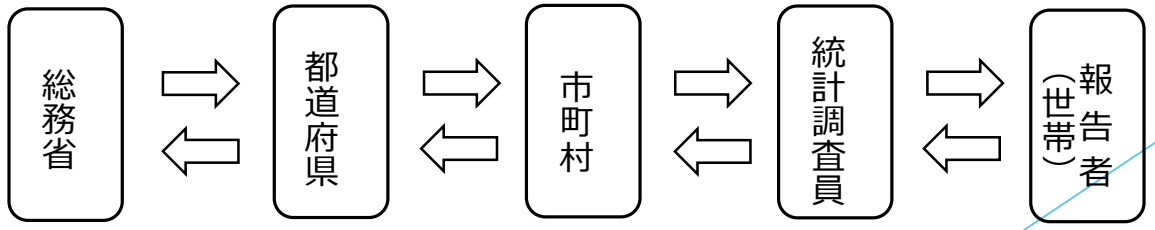
調査結果は、何に利用されているの？

衆議院の小選挙区の改定、地方交付税の算出、子育て支援のための施策、防災 計画の策定、学術研究の資料として利用されます。

主な調査内容は？

世帯数については、男女の別、出生の年月、配偶者の有無、就業実態、従業地または通学地など１５項目。世帯については、世帯員の数、世帯の種類、住居の種類、住宅の建て方の4項目。

調査の流れは？



統計調査員活動を体験した先輩方の声

公務員志望の方におススメ！

地域の事業主や世帯を一人で回り調査に協力してもらうという、インターンとは一味違った、責任ある公務員の仕事を任せてもらった。
公務員志望の方には魅力的なプログラム！

（人文社会科学部３年　Tさん）

さまざまなサポートがあって安心！

調査説明会では、資料や口頭での説明だけでなく、実際の対応の仕方をロールプレイ形式で教えてもらえた。
疑問点にもその場で答えてもらえたので不安なく調査に臨めた！

（人文社会科学部３年　Hさん）

地域を知ることができた！

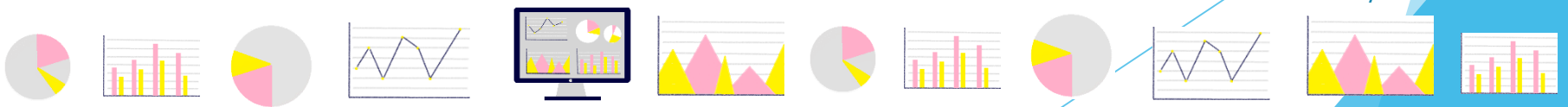
地域の企業や個人経営の方に直接会う機会はあまりないのでいい経験になると思い参加した。
普段は会えない人に会えるというのが良い体験になった。課外活動に参加することはいいチャンスだと思う！

（人文社会科学部３年　Oさん）

自分が成長したことを実感！

最初はどんな調査なのかしっかり説明しなければと説明が長くなってしまったが、途中からは、相手の状況に合わせてコンパクトに説明できるようになった。相手に合わせて対応を変える対応力が身についた！

（人文社会科学部３年　Sさん）



応募期間

令和２年４月９日（木）～ ４月３０日（木）

募集人員　　２０名程度

エントリー方法

◆QRコードから必要事項を申込フォームで送信又は地域未来創生センターに参加申込書を提出する。

※必要事項：氏名、フリガナ、生年月日、性別、
現住所、電話番号、メール、アドレス、
学部、学年、車の有無、希望する調査エリア

応募要件

◆令和２年４月９日時点で弘前大学に在籍する2～4年生の学生であること。

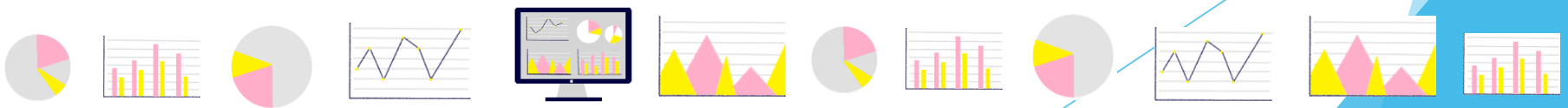
◆調査期間は、弘前市内で20時頃まで活動できること。

◆マイナンバー（個人番号）と本人確認書類を提出できること。

◆秘匿情報の取扱等責任をもって調査業務を遂行できること。

■お問合せ＆エントリー先

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
総合教育棟２F 206号室（弘前市文京町1）
☎0172-39-3198（平日10:15～17:00）
✉irrc@hirosaki-u.ac.jp

■青森県の問合せ先

青森県企画政策部統計分析課　人口労働統計グループ
〒030－8570　青森市長島1-1-1
☎017-734-9164　fax017-734-8038
✉tokei@pref.aomori.lg.jp